和歌山県立日高高等学校 SGH通信 第18号

2019年1月28日

ALL JAPAN SUPER GLOBAL HIGH SCHOOL FORUM 2018

「日頃の学習や課題研究の成果を発表し、広く普及するとともに、他の発表に触れてグローバルな社会課題に対する見識を深め、お互いに刺激を受ける場とする。」(フォーラム要項より抜粋)

12 月 15 日（土）、東京で行われた SGH 全国高校生フォーラムに2年生代表1グループが参加しました。今年は防災分野で「HIDAKARD -- Simulating Evacuation Center Management with Foreigners -- 」に取り組んでいるグループ（2年4組　玉置千也、出口翔竜、大木優実、芝﨑理紗、畑崎咲良）が英語でポスター発表を行いました。

報告 1（取組）

僕たちは、「避難所運営ゲーム"HUG"」を英語化した「HIDAKARD」を作成しました。ただ英訳するだけでなく、デザインや避難者情報などにさまざまな工夫を凝らしました。

フォーラム参加が決まってからは、ポスター作成と英文原稿作成に力を入れ、後半は発表練習に時間を費やしました。発表時間が４分と短く、伝えたいことをどのように伝えるかを、深く考えました。僕たちは決して英語のスピーキングが上手なほうではないので、当初は時間内に収められず、発表に５分以上かかっていましたが、クラスの皆や先生方に協力してもらい、発表の仕方や発音に関するアドバイスをいただきながら、本番に向けて準備しました。

本番当日は緊張しましたが、声の大きさ、話す速さ、アイコンタクトなどを意識して発表することができました。発表全体としては、思っていたよりも上手くいきました。審査員の方からも、興味深い研究内容だと褒めていただきました。今後は「HIDAKARD」を広め、たくさんの人に使用してもらえるようにしたいです。　　２年４組　出口翔竜

報告 2（学び）

私がこの研究を通して学んだことは二つ。まず、災害時自分たちは何をすべきかということだ。私たち高校生は、十分避難所運営の力になれる。そのため、「協力」を大切にすること、そしてその意識を事前に高めておくことが必要だということを学んだ。次に、英語にしても、その他のコミュニケーションにしても、何より積極性が大事だということだ。自分からやらなければ何事も始まらないと、分かってはいたが、実際に大勢の高校生と交流をして、その思いが何倍にも強くなった。他府県の高校生の英語能力の高さ、意見を堂々という姿勢が本当に印象深く、良い刺激を受けることができた。　　２年４組　大木優実

報告 3（コミニュケーション）

僕は、英語コミュニケーションの大切さを学びました。全国フォーラムには、自分よりも英語を話せる人ばかりが来ていました。中には、同じ高校生とは思えないほど、英語を話すことができる人もたくさんいました。そんな人たちと一緒に参加したディスカッションでは、コミュニケーション能力の大切さを学びました。僕の拙い英語でも、皆さん一生懸命に聞いてくれ、一生懸命に伝えようとしてくれました。英語の力だけでなく、相手に伝えようとする気持ちが大切なのだと学びました。

また、東京には多くの外国人がいて、グローバル化が進んでいることを実感しました。外国の人に話しかけられた時に、僕たちは戸惑ってしまう場面がありました。英語でコミュニケーションを取ることができれば、そういう場面にもうまく対応できると思います。自分の英語に自信が持てるように、もっと英語を勉強しなくてはいけないと思いました。

僕は今回、英語コミュニケーションの大切さを学んだと同時に、自身の英語スキルの低さを痛感しました。今後はもっと英語を勉強して、いろいろな物をグローバルな視点で見て、考えられるようになりたいです。　　２年４組　玉置千也

評価（審査員コメント）

You have made a wonderful solution to a big problem, because it's very practical and every community can do it rather easily. You looked a little tense in the QA period. Go easy next time! Thank you!